

# 補習校でChromebook導入

1・2・3

～経緯と今後の展望～

新型コロナウイルスの蔓延は、日本におけるGIGAスクール構想を加速させた。GIGAスクール構想とは、「児童生徒向けの1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することにより、子どもたち一人ひとりにとっての個別最適化された教育を実現させる構想」である。



▲高等部での調べ学習にChromebookを使用。画面が大きく使いやすくと好評。

教育現場では、これまでの教育実践の蓄積を土台とし、ICT (Information and Communication Technology) を活用することにより学習活動をより一層充実させ、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善や個別最適な学びの実現が求められている。具体的には、ICTを活用することにより、「子供たち一人ひとりの反応を踏まえた、双方向型の一斉授業」「一人ひとりの教育的ニーズや学習状況に応じた個別学習」「各自の考えを即時に共有し、多様な意見にも即時に触れられること」が可能となると考えられている。

残念ながら現状では、本校を含む補習授業校については、GIGAスクール構想の蚊帳の外といえるが、昨年度末20台のChromebookの購入が実現した。購入のきっかけとなったのは、中高等部によるオンライン定期考査の試みである。現在、中高等部では年間4回の定期考査を実施しているが、定期考査日と現地校のイベントが重なってしまうことも少なくない。



昨年度実施したオンラインテストの様子

そこで「オンラインで実施できる教科があれば、登校できない生徒も、自宅でのテストが可能となる」との発想から「オンラインテスト案」が持ち上がった。

ただ、いざ実施するとなると補習校でテストを実施するための生徒用PCがそろわず、当日は教職員が自前PCを持ち寄っての実施となってしまった。この現状

および教員の強い要望を受け、昨年度末、学校運営委員会にて、補習校保管用PC購入が承認された。

今年度は、中学部生徒の増加に合わせ、さらに5台のChromebook追加購入が決まり、8月以降には1クラス25人以内であれば、全員が一人1台PCを使用することが可能となる。

日本国内の「一人1台パソコン」には程遠いが、本補習授業校にとってはGIGAスクール構想に近づく大きな一歩となったことは言うまでもない。

今後、Chromebookの活用は、オンラインテストに留まらず、調べ学習、グループ学習などの協働的な学習や個に応じた学習場面における有効活用が期待される。これからは、子ども達が「自ら」「共に」「粘り強く」学び続けることのできる教育環境づくりを走りながら考え続けていきたい。



購入したChromebook

(ヒューストン日本語補習校校長 岡林健児)

## 教育コラム

### あいさつは 大きな声で 気持ちよく

#### 「あいさつは心の窓をひらく鍵」。

なんでもないことのように思いますが、あいさつは、人間関係を良好にする役割を果たしているように思います。しかし、あいさつが素直に出ない人が多いのも事実です。ここ数年のコロナ禍においてはマスクをして会話も少なくなり、人と会う機会も減ってしまい、挨拶をする機会が少なくなりました。

子どものあいさつの仕方ひとつをとっても、明るくできる子、できない子、元気よくできる子、できない子、ほとんどしない子、丁寧にできる子、ぞんざいな子、とさまざまです。そして、上手に好ましくできる子は誰からも好感を持たれ、かわいがられ、時にはほめられもします。そういう子どもは日々の生活が楽しく、生き生きとして、子どもの本来の元気にあふれています。反対に、これらが好ましくできない子は、なんとなく疎まれ、不快感を持たれ、いつの間にか、それらが本人の性格や行動に影響を与えていくこととなります。



にこやかにあいさつが交わされる家庭はさわやかです。そのような家庭で育った子どもも、さわやかです。あいさつのある家庭環境がさわやかな人間性が育ちます。大人になってからあいさつはいいことだということが、理屈でわかるようになってから、しっかりあいさつをしなさい、と言っても、なかなか素直に出てこないものです。

あいさつという、理屈ではない生活のしつけは、幼児期において、しっかり習慣づけられてないと、難しいもの

があります。

おはようございます・おやすみなさい・こんにちは・こんばんは・さようなら・ありがとう・すみません・いただきます・ただいま・いただきます・ごちそうさま・ハイの返事などなど、あいさつも多様です。



年長さんともなれば、しっかりおじきをしてあいさつができるところまで、なってほしいです。もしこれだけのあいさつが、素直にできるようになれば、まちがいないすばらしい人間性が育つと思います。明るくて、行動力があり、心のやさしい、しかもがんばりのきく、たのしい人柄が育ちます。

しかも幼児期であれば、どの子どもも必ずあいさつができるようになります。その方法はただひとつ、まわりの大人がごく自然に日常のあいさつを交わすことです。

決して、あいさつをしなさいとか、あいさつをすればごほうびをあげるとか言わないで、ごくごく自然にあたりまえのこととして、あいさつの声をかけることです。最初はうまく反応してくれないかもしれませんが、でも、淡々と続けてください。きっと、必ず答えは返ってきます。

形式的だとか、儀礼的だとか、大人の理屈は一切ぬきです。「あいさつ」を交わすうちに、ごく自然に敬い、親しみの心情が湧いてくるのです。

湧いてきてからするのでもなく、むろん押しつけでもありません。自然にそうなる雰囲気づくりを心がけましょう。まわりの大人にとっても挨拶は大切なものであることが言えます。

「あいさつ」は人間だけにしかできない、「心の窓をひらく鍵」です。

日系団体の活動を紹介するラジオ「[さくらRADIO・かわら版USA](#)」でベアチャイルドを取り上げてもらいました。お聞きください。



([Bear Child Education Academy](#) 熊本祐滉)